

8月  
2024年

164号

地域共創・未来共創の大学へ

# 広 沖縄大学 報

OKINAWA UNIVERSITY

発行

沖縄大学経営企画室  
〒902-8521 沖縄県那覇市字国場555  
☎ 098(832) 2910  
<http://www.okinawa-u.ac.jp>

「沖大は良い大学！  
オープンキャンパス等に参加して  
きちんと比較してより良い進路を！」



今井 彩晴さん  
(福祉文化学科1年次)

OTVの番組「ぐしけんさん」で  
沖大の魅力を紹介！  
玉城 功大さん  
(経法商学科3年次)



「学業×軟式野球部マネージャー×アイドル」



比嘉 にこさん  
(福祉文化学科2年次)

## これが、沖大。 これが、私。



「全九州大学リーグでの  
一部昇格を目標に！」  
県大学バスケ3連覇！  
男子バスケットボール部



「球速アップを目指して  
頑張りたい！」  
日本代表に選出！  
軟式野球部 國吉 翔太さん  
(福祉文化学科3年)



金城 小雪さん  
(経法商学科1年次)



比嘉 希咲さん  
(国際コミュニケーション学科4年次)

「公務員試験対策講座が充実！  
高校3年の夏には沖大への進学を  
決めました！」

「韓国語能力検定  
最上級レベルの6級に合格！」

# 第六次中期計画

## スタート!

沖縄大学で中長期経営計画が始まったのは2005年です。2003年に大学基準協会に加盟したとき、自己点検・評価に対する厳しい判定を受けたため、これを教育・研究活動等の改善に役立ててゆくこと、2008年に迎える創立50周年に向けた展望を計画することが主眼でした。

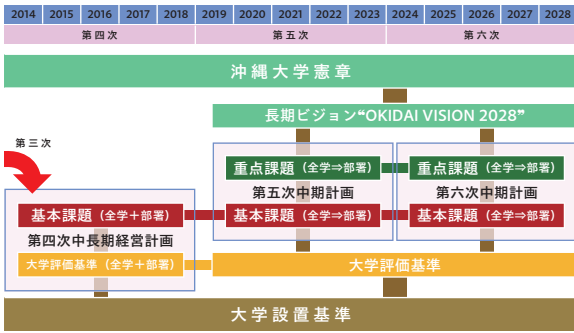
この第一次中長期経営計画の時期に、沖縄大学がそれまでの30年間礎としてきた「地域に根ざし、地域に学び、地域と共に生きる、開かれた大学」という大学理念を繰り返す作業があり、50周年の節目に新しい理念「地域共創・未来共創の大学へ」が宣言されることになりました。大学の理念とは、その大学の存立目的を表すものであり、時代と社会の要請が渦巻く中でその大学が新しい道を拓いてゆくときの道標となるものです。「わ

が大学はかくありたい」と自己規定する使命は学内で試され、そして社会に試されます。それから10年、

長期ビジョン「OKIDAI VISION 2028」は、第五次中期計画(2019年~2023年)及び第六次中期計画(2024年~2028年)の10年間で実現を目指します。



沖繩大学憲章 → 長期ビジョン「OKIDAI VISION 2028」 → 中期計画 → 短期計画(年次計画)



学長 山代 寛

沖縄大学は「地域共創・未来共創の大学へ」を掲げつつ中長期経営計画を二次、三次、四次と歩んできました。

2018年6月10日、沖縄大学は創立60周年を迎え、次の70周年を迎えるわ

が沖縄大学を展望し、ありたい姿への道程を考える年とし、10年後のありたい姿としてOKIDAI VISION2028を設定し、そこへ通じる中期目標として、大学理念を道標に第五次中期計画が設定されました。

OKIDAI VISION 2028 は、大学理念を解釈し手の届きそうな具体像を描く試みです。沖縄大学憲章の3つの目標それぞれの具体像として①沖大という場 ②沖大の教育・研究、③沖大の学生像、を描き、さらに1つの「余白」を設けています。憲章の3つの目標に収まらないが、この余白は理念実現のために何が必要なのかを10年ごとに考える機会としています。これを④沖大の新たな共創への挑戦、とし、そして4つの具体像から、「地域がキャンパス、地域のキャンパス」でありたいという沖縄大学の将来像を描いています。その10年後の将来像に向かう前半5年の航海が中間地点に達し、2023年8月、教職合同研修会で「第五次中期計画から第六次中期計画へ」のグループワークが行われ、教職員の意識を高めることができました。

そして2024年4月、沖縄大学は、沖縄大学憲章という道標を頼りに、後半5年の第六次中期計画がスタートしました。

2028年に航海を終える前に私から次の学長に引き継ぐこととなりますが、次なる長期ビジョンに繋げるべく、第六次中期計画を送り出します。私立大学存続への危機感が全国で高まる中、本学にも荒波が来ることを覚悟しつつ、これまで長い間培ってきた沖縄大学の存在意義を胸に抱き、全員で漕ぎ続けてほしいと願っています。

沖縄大学憲章「地域共創・未来共創の大学へ」			
理念	目標	①地球市民・地域市民の共育の拠点	②地球環境・地域環境に貢献する教育研究
		③共創力を育む大学教育への変革	
3つの方針		学位授与の方針(DP)、教育課程編成・実施の方針(CP)・入学者受け入れの方針(AP)	
OKIDAI VISION 2028「地域がキャンパス、地域のキャンパス」			
重点課題	テーマ	① 沖大という場	② 沖大の教育・研究
	2028年将来像	年齢・性・出身・職業・障がい・国籍・信条を超え多様な人々が行き交う地域のホットスポット	持続的発展を目指し、自治体・経済界・地域社会と連携しながら、地球と地域の重要課題に果敢に挑戦する教育・研究
		大学と地域を行き来し、対話・共創・実践の中から地域の未来を語るフィールドワーカー	③ 沖大の学生像
			④ 沖大の新たな共創への挑戦
			<ul style="list-style-type: none"> <li>◎ 小さな大学の機動性を活かし、時代と地域の要請にスピード感をもって応える大学</li> <li>◎ 同窓会・後援会と大学が一体的に、地域の中核人材を輩出し続ける大学</li> <li>◎ 学生が誇り高く躍動し、地域が共鳴して新たなステージを創り出す大学</li> <li>◎ 教職員が互いを尊重し、一丸となって力を発揮できる職場を創り、学生の成長を支援する大学</li> </ul>



## 創立66周年を迎えて

## スペシャル対談 山代寛学長 × 仲地博元学長

2024年6月10日、沖縄大学は創立66周年を迎えました。

本学は創立60周年に沖縄大学憲章の実現を目指した長期ビジョンを掲げ、10年後の将来像を見据えた第五次中期計画を同時に策定、自己点検・評価活動に基づく教育の質保証を行ってきました。

長期ビジョン策定に関わり、沖縄大学の飛躍に期待を寄せ続けてくださる第22代・23代学長仲地博先生をお招きして、山代寛学長と創立記念日を迎えたこの日に更なる沖縄大学の発展について展望しました。

## ▶ 2019年、長期ビジョン策定への想い

**仲地：**沖縄大学が創立50周年を迎えたときに、私は非常勤講師として祝賀式に参加していました。そのときの印象を「躍動し活力があり発展する大学の印象です」と当時の理事長新崎盛暉先生に言葉をかけました。このころ沖縄大学はこども文化学科の創設、GP（全国の大学の模範となる優れた取り組み）を7つ獲得という異例の成果を上げ、「教育力の沖大」を誇りをもって自称することができた状況でした。

50周年から60周年はホップ・ステップ・ジャンプの「ステップ期」であったかと振り返ります。健康スポーツ福祉専攻の設置、教員採用試験合格者の着実な増加、アネックス共創館の設置、そして文部科学省のブランディング事業のスタートの年に、全国大学の中でわずか40大学しか採択されなかったのですが、沖縄大学の「沖縄型福祉社会の共創」が採択され地域に貢献する研究力が評価されたのです。

60周年にあたり、当時の長濱理事長の提言で、10年後の70周年に向け長期計画を策定することになりました。10年後はかくありたいという具体像を描くのです。OKIDAI VISION 2028です。70周年に向けての「ジャンプ期」の創造です。更なる飛躍をするために沖縄大学の理念である「地域に根ざし、地域に学び、地域と共に生きる、開かれた大学」を大学存立の使命として深く自覚し、21世紀型社会である「グローバル社会」の要請に応える形でこの理念を「地域共創・未来共創の大学へ」と発展させ、地球大で考え足元から行動を起こす21世紀型市民である「地球市民」の共育をめざすために、きちんとしたビジョン策定が必要だと取り組みました。

長期計画であるOKIDAI VISION 2028は、前半5年の第五次中期計画で具体化がはかられます。五次中計は大学の課題と特色を盛り込んで落とし込んでいくとても難しい構成にはなっていますが大学憲章をうまく構造化させて、各学部、部署が着実にビジョン達成に向けて歩んでいるように感じています。

理系学部である健康栄養学部の創設、50名を超える教員採用試験の合格者、プロ野球ドラフト会議で一位指名、司法試験の合格者とジャンプ期と呼ぶに相応しい成果を上げているのではないのでしょうか。

## ▶ 長期ビジョン『「地域がキャンパス 地域のキャンパス」沖縄大学は「知」と「人」の交流拠点となります』に掲げた沖縄大学の将来像について

**仲地：**コロナ禍の3年間は大学は事業を進められず、学生はキャンパスデビューもできずに困難な中でしたがよくがんばっていると感じました。例えば履修相談室の設置はとても期待しています。沖縄大学を点検するときの気になる指標が中退率でしたが履修相談室ができた成果を望めるのではないかと考えます。

## ■山代 寛学長 プロフィール

専門は医学一般。島根県出身。琉球大医学部医学科卒業、鳥取大大学院修了。08年に沖縄大文学部教授に就任。17年より副学長。19年より健康栄養学部学部長。22年に25代学長に就任。



地域との連携も深まっています。スポーツ団体、市議会、社協、NPOと包括連携協定が次々結ばれ、地域の期待が形となり長期ビジョンが具体化しつつあります。

私が在任中にやり残したことが「沖縄大学の公立化について、議論の芽出し」です。それが第六次中計には盛り込まれており喜んでます。単に大学淘汰の時代に大学延命の措置ではなく、地域住民にとっての良い策であり自治体にとっても良い策であることを述べておきたいです。那覇市の住民の子弟は安い学納金で入学ができる、市にとっては設備投資等財政負担なく大学がもてることで、デメリットはありません。唯一、私立大学の理念や目標をどうするかという議論にはなりますが、本学の地域の大学であるという理念は那覇市の理念と親和性がありますので大学の公立化は第六次中計の核の1つにしてほしいと考えます。

## ▶ 沖縄大学に期待することについて

**仲地：**沖縄県は薬学部の設置をどこかの大学にと企図し、現在は琉球大学が検討に入っていると報道されていますが、ハードルは高そうです。そのような地域のニーズにどう大学としては応えるべきか、地域の宝となる大学になるにはどうすればよいか、沖縄の各大学が協力し連携しながらそれぞれの大学を活かすような展望を作っていくことができる、その議論のリーダーが沖縄大学であってほしいと願います。沖縄の全大学の良さを再確認して議論を重ねてほしいです。

**山代：**長期ビジョンに掲げた「地域がキャンパス～」ということについては、ここ数か月で沖縄県や那覇市から地域課題を学生と共に解決できないかという協力のお願いがありました。沖縄県こども計画(仮称)に対する大学生等の意見反映取組への協力では「国際開発とSDGs」の講義で意見聴取及びフィールドワークを実施していく予定です。また那覇市、自治会、沖縄大学の三者連携企画「なはユース自治大学」がスタートしています。

## ▶ 創立66周年を迎えて

**山代：**沖縄大学を見守ってくださる方々、ステークホルダーの意見を取り入れながら発展できていることに感謝を申し上げます。卒業生の就職率や入試状況などを見ても大学運営については好調を維持していますが、そこに慢心せずに、取り組みを続けていきたいと考えています。

仲地先生の「先を見る力」に沖縄大学の発展が築かれていて、行政との連携事業も仲地先生のお力をお借りしている部分が多岐にわたっています。本日は、仲地先生からのお言葉を受けて、更なる決意を胸に刻みました。

## ■仲地 博先生 プロフィール

専門分野の行政法・地方自治法・憲法を中心に平和学などの分野でも研究を展開。北海道大学法学部を卒業後、明治大大学院法学研究科博士課程満期退学。1974年に琉球大学に着任し、2004年に同大法科大学院教授・法文学部長。09年から沖縄大法経学部教授。副学長を経て14年に22代学長に就任。(23代学長再任。)



(レシピ開発に取り組んだ2023年度卒業の大見謝季子さん、崎浜優里さん、比嘉彩芽さん)



# オイナリアン×管理栄養学科

## 新商品発売中!

—学生が考案したレシピで

油揚げ 廃棄物をよみがえらせる—



管理栄養学科下地みさ子先生のゼミでは、2022年度よりオイナリアンさんのコラボ企画を進めていました。オイナリアンさんでは折れや穴があいてしまった油揚げがひと月で3000枚ほど出てしまい課題を抱えていたそうです。

2022年度に学生から出た案は凝ったレシピになってしまい、商品化するとするとオイナリアンさん側での労力が課題となったため2023年度は効率よく大量調理できる方法をと再度取り組みました。量産でき保存が可能なレシピをとブラッシュアップを重ね、「油揚げきなこ味」、「フレンチトースト味」、「ピザ味」の3つのレシピが誕生しました。昨年12月にオイナリアンの吉里時浩社長へプレゼンテーションを行い、今年3月に試作品が完成しました。

そして学生が提案したレシピのうち、「油揚げきなこ味」が5月中旬よりテスト

販売中、店頭に並んでいます。(取材に伺ったこの日も残り1つでした!)来年3月までにパッケージやネーミングを考えて、正式販売されるということです。1つ60円というお求めやすい価格で、リピーターも出てきているとのこと。吉里社長は、「美味しいので是非、多くの方に食べてほしい」と期待を寄せています。

「フレンチトースト味」は今後ホテルへのアプローチを仕掛けると吉里社長は展望を話してくれました。「国産大豆でつくった油揚げはタンパク質が豊富で栄養のバランスが良いこと、小麦粉を使っていないのでグルテンフリーを好むターゲット層へも響く商品となるのではないかと考えています」と吉里社長。そしてもう一種類の「ピザ味」は居酒屋等をターゲットとして今後販路を構築する予定です。

吉里社長に沖縄大学の学生に期待することを伺いました。「学生のみなさんには

資格だけでなく経営なども学び幅を広げてほしいなと思います。食は基本ですから、食のエキスパートとして医療分野や食品業界で発言できる強さ勇気をもって社会に挑戦してほしいです」とエールを贈ってくださいました。

指導にあたった下地みさ子先生は「私のゼミでは、1期生から地域の事業系食品ロス削減について取り組んでおり、オイナリアンさんの悩み解決を目指した取り組みでした。今年(3期生)は、家庭系食品ロス削減のレシピに取り組んでいます。地域貢献に向け学生たちのがんばりを応援していただけるとありがたいです」と話してくれました。

自社だけでは解決できない課題に、学生のアイデアを盛り込みアップサイクルした3種類、味よし、栄養バランスよし、価格よしの3拍子揃った商品、是非、お楽しみください。



# 沖大の魅力に迫る vol.12 沖大散策

沖縄大学キャンパスには貴重な美術品が数多くあります。様々な人の思いが込められた作品について、広報誌では定期的に紹介しています。

今回は、図書館入口の斜め上付近にあるシーサーについてです。

やさしい表情ですが強さも感じられる1体(雄)だけのシーサー。どなたが製作されたものか、いつから、どういういきさつで設置されたのか、不明なものでした。



## 調査スタート!

当時勤めていた職員の方に連絡を取り、わかったことは2号館が完成した1989年に建設会社から寄贈いただいたという情報でした。1メートルほどもある大型な作品なのできっと高価なものではないかと思つた取材班は、写真や本などからシーサーづくりを手掛ける職人の方の作風を調べ、背中の鬘からやちむん家の新垣さんの作品ではないかとあたりをつけました。

写真撮影し、本学福祉文化学科の卒業生で現在陶芸家として活躍されている、新垣優人さんに情報提供をお願いしたところ、優人さんのお父様新垣光雄さんの作品であることがわかりました。シーサーについてのお話しを伺うために、取材班は読谷の工房を訪れました。「大学に通っていたときに、図書館の上のほうにシーサーがあつて『お父さんの作品じゃないかな』とは思っていたんですよ」と話してくれた新垣優人さん。2017年に本学福祉文化学科を卒業し、現在はやちむん家3代目を継承しています。



新垣光雄さん

新垣優人さん

そして、沖縄大学にある作品の製作者が優人さんのお父さん、新垣光雄さんです。現在、「窯元 やちむん家」の代表を務める光雄さんは、10代後半からシーサー作りをはじめ、1989年から2000年まではほぼ毎年沖展で賞を受賞、イオンライカムの巨大シーサーや那覇市内でも多くの巨大シーサーを手掛け、清水寺「祥雲青龍」など県外の神社仏閣などへ龍の作品を奉納しています。

## 沖大にあるシーサーについて

光雄さん33年前くらいの作品、陶工になつてすぐの作品です。そのころは大きなものをつくることは多くなかつたので貴重なものかとおもいます。昔も今も、一生懸命、一番よいものをという想いで作つていたのはかわらないです。なぜ沖縄大学に作品がいくことになつたか、その詳細は覚えてはいませんが…。」

## なぜ1体だけなのですか

「その当時は、1匹というのを多く作っていました。私のシーサー作

りは1匹からスタートして、作りたいものを作っていました。」

## 作風の変化について

「最近の作風になつたのは今の人にあわせるために、古い伝統も守りつつ新しいものを求めていって今の顔つきになつてきました。世界、時代にあわせてと言いますがチャンネル文化ですかね」

「シーサー作り、当時は地元の土にこだわり赤土で作っていました。学んでいく中で焼き方や県外の土をいれたほうが良いなど変化してきました。」

## シーサーを通して伝えたい思い

「シーサーは魔除けという役割がありますね。私も心を込めて作っています。沖縄大学にあるシーサーも魔除け、空気を換える存在であるといいなと思います。」

「現在は8割が県外からの注文です。床の間や家の中に置きたいと気に入ったものを買いたいというギャラリイをもちたいと思います。ライトアップして展示できる場所ができると良いですね。」

「大きい作品はパーツを組み上げて設置していきます。清水寺のものは2m80cm、沖縄で製作したものを



運び、モルタルを流し込み設置しています。2024年2月には豊川稲荷にも設置しました。お客様は幸せを求めて買いに来る。子どもをつくっている感じで製作、完成すると子どもが巣立つような思いです。県外、そして国外にと作品たちが旅立つとうれしいですね」

沖縄大学に通い福祉職に進もうとされていた優人さんのお話しは後日、広報誌「あの人はいま」で紹介いたします。お楽しみに。

窯元 やちむん家  
新垣 光雄さん

プロフィール  
昭和41年生まれ。

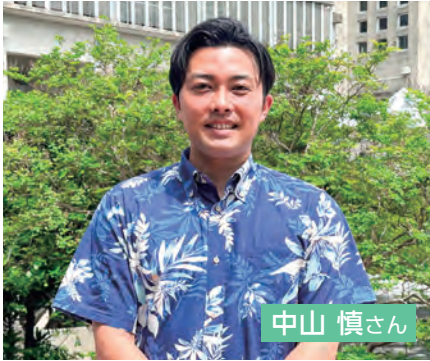
学生時代から父・栄得、兄・栄一の手伝いをし、卒業後、手作りシーサー、龍を専門に、父を師と仰ぎ今も模索中。現在、「窯元 やちむん家」の代表を務める。



## 卒業生の活躍を紹介!

## あの人はいま

卒業生の活躍を紹介する企画「あの人はいま」。今回は今年5月から国際協力機構(JICA)の青年海外協力隊員としてタイの中学生、高校生に野球を指導している中山慎さんを紹介します。



中山 慎さん

嘉数中学校→明豊高校(大分県、高校野球強豪校、2年に甲子園出場)→沖縄大学

2017年3月 | 法経学科卒業  
2017年4月 | 嘉手納高校社会科教諭勤務  
2020年 | 不動産会社勤務  
2021年 | 中城村津覇小学校特別支援員  
2022年 | 嘉数中学校非常勤  
2023年8月 | JICA研修  
// 10月 | JICAグローバルプログラム

## Q 現在のお仕事について教えてください

私はタイの中部にあるスパンブリー県で中高一貫校のスポーツスクールに配属されています。学校には17種類のスポーツがあってその中で野球を専門に取り組んでいる中高生へ野球の指導を行っています。

日々のスケジュールは朝6:00~7:30まで朝練を行い、基本的に体力強化、柔軟、フィジカル強化がメインです。同僚にメニューの提案を行うなど試行錯誤しながら日々取り組んでいます。その後朝食をとって職員のミーティング、野球の練習が始まるのが15時からで、私は技術指導、メニューの提案をするなど日本の野球を少し交えながら、中学、高校とそれぞれに合った指導を心掛けています。赴任して1ヶ月ちょっとですが、練習内容の工夫が必要だと感じております。自分に求められていることを意識しながら野球が楽しいと思ってくれることを一番にと努めています。

## Q 学生時代について

ずっと野球をしていて、高校は野球の強豪校明豊高校へ進学して、大学に進むか迷っているときに当時の野球部の大城貴之監督から声をかけられて、大学進学を決めました。社会科が好きだったので教員免許を取得できればと教職課程も履修していました。

大学時代は4年間野球ばっかりの日々でし

た。3年次からは学生コーチ兼マネージャーで関わりました。大城監督は指導者として関わる道を教えてくれました。

## Q 選手ではなくコーチ兼マネージャーとして活動したのはどうしてですか

大学2年次のときに「指導者になりたい」と考えるようになりました。

それで、大城監督に相談したら、本学のOBで当時嘉手納高校の野球部監督だった大蔵宗元先生の元で、高校生へ指導させていただくことになり、大学卒業後も4年間、社会科教諭として嘉手納高校野球部でコーチ、監督を務めました。そのころ、仲地礼亜や平良典士がいましたね。

## Q 大学時代の経験が現在のお仕事に繋がっているのですね

そうですね、嘉手納高校のあとは福岡の不動産会社に勤務しましたが、ちょうど新型コロナウイルスの影響で緊急事態宣言中にじっくり考える時間がもてたこともあり、20代のうちになんかに挑戦したいという想いや子どもと接するのが好きなので野球指導などができるチャンスはないかと、それでJICAに応募しました。コロナ禍で、海外にも行けない状況でしたから、行けるようになったら思いっきりやりたいことをしたいとも思いました。

福岡から戻ってきた後は中城村の津覇小学校で特別支援員として勤め、そのときに、JICAに選ばれ、2023年10月からはJICAグローバルプログラムで愛媛県伊予市にて地域活性化の研修を3ヶ月、その後福島県二本松市にてタイ語の訓練、安全対策についての研修等を2ヶ月受けました。タイ語も日常生活に支障がない程度身に付きました。世界の国々へ羽ばたく同期86人と共同生活をしながら赴任国へ派遣されるに相応しい人物へと成長することができました。



## Q 今後の目標について

まだ、タイに来てわずかなので、業務を熟すことで必死ですが、日本のことや沖縄の文化なども伝えていけたらなと思っています。三線が弾けるので、披露しながら沖縄の文化を紹介できたいですね。

2年間の任務終了後も、沖縄や日本に絞らずにスポーツになにかしら関わってみたいと思います。スポーツを楽しむことができる環境作りやスポーツを通してなにかを学ぶ場づくりをしたいです。やっぱり、教えることが好きで子供たちと接するのが好きなんです。これから子供たちの未来を考え、自分に何が出来るかを考えていきたいと思います。

## Q 沖縄大学の学生へメッセージ

大学時代はいろいろなことに興味を持って、視野を広げていってほしいです。大学生活だからこそ自由にやりたいことが出来ますし、時間に余裕があります。バイトに費やすことも悪くないですが、多くの大人と関わり会話する力をつけること、人と関わることを大切にしてほしいです。自分の知らない世界へ飛び込むこともいい経験です。


**本学野球部 大城貴之前監督より中山さんへ期待のコメント**

教職を頑張りたいたいという理由で退部を申し出てきたことがありました。彼に期待していた私は、辞めずにOBの大蔵先生の下で経験を積むことを提案しました。学校現場で多くの先生と生徒に出会い、今日があると思います。これからも羽ばたくような活躍を期待しています。





経法商学部 経法商学科  
前田 舟子 先生

略歴  
琉球大学大学院  
人文社会科学研究所(学位:博士(学術))

内間 樹里愛 さん  
経法商学科3年次



史跡  
巡り

# 第3回 わたしの先生、 紹介します!

今回は経法商学科の前田舟子先生について、ゼミ生の内間樹里愛さんに紹介してもらいます。

## 1 前田ゼミでの活動

ゼミでは主に琉球王国の歴史を中心に学んでいます。私は現在3年生ですが、2年生のときから県内各地の史跡を回り、その背景にある歴史や保存状況などについて学んでいます。沖縄県の景勝地でもあり世界遺産にも登録されている首里城や識名園をはじめ、勝連城跡や斎場御嶽なども回りました。最近では、フィールドワークに慣れてきたこともあり、一般には知られていない隠れた史跡を探す活動を行ったりしています。それ以外では、後輩のゼミと合同でスポーツ大会を行うなど、みんなとても活発で明るいゼミです。

## 2 ゼミを通して感じた前田先生の魅力

前田先生の魅力は、仕事に対してひたむきに取り組む姿勢にあると思います。授業では、学生の出席カードの感想文を丁寧に読み、次の授業で紹介してくれたりします。また、授業ではよくニュースの話題や時事問題を取り入れてくれるので楽しいです。前田先生はとても歴史が好きで、歴史のことになるといつも夢中になって話しています。読書がとても好きで、好きな分野に対しては徹底的に調べるその熱量がすごいと思います。

## 4 琉球史を志したきっかけ

沖縄出身の前田先生は、小学校時代に平和学習で沖縄戦を通しての沖縄の歴史を学んできたそうです。でもあるとき、浦添ようどれにある琉球国王の墓の存在を知ってから、初めて琉球という王国に興味を持ったとのこと。琉球はかつて「万国津梁の国」と呼ばれ、アジア世界と平和に交流する時代があったことを知り、いつか琉球王国の歴史を勉強したいと思うようになったそうです。とはいえ、高校までは学校で琉球史を学ぶ機会がなかったそうなのですが、その反動からか、大学に進学してからは、博士課程に進むくらい琉球史研究にのめり込んだそうです。



集合  
写真

## 3 前田先生の大学時代

前田先生は、琉球史を学びたくて大学に進学したそうです。学生時代には、週末や夏休みになると県内各地の史跡を巡っていたそうで、2年生のときに初めて中国を旅したことがきっかけで、中琉交流史を卒論のテーマに選んだそうです。大学時代は中国の歴史にもはまり、4年生の時には1年間中国に交換留学したそうで、今でも中国語が話せます。



## 5 研究に対する情熱

前田先生はとにかく研究への情熱がすごい人です。いつも本を読んでいて、夜遅くまで大学院生を指導していたり、休みの日にも県内各地の史跡を回っていたりと、常に忙しく動き回っています。先生の授業では、先生が語る歴史愛が面白くて、歴史が苦手な人でも歴史が好きになれる授業です。沖縄大学には、琉球国王や士族たちのほか、教科書に出てくるような人たちの子孫が多く集まっているみたいで、ゼミの先輩たちの中には自分の祖先を研究している人もいます。先生の話聞いていて、とても研究が好きなんだと感じさせられます。





福祉文化学科・吉川ゼミ

## 平和への願いと誓いを込めて

6月23日は沖縄戦の戦没者を追悼する「慰霊の日」です。

戦後79年を迎えた今年もゼミや授業などで、平和学習を取り入れての活動が多くありました。

福祉文化学科吉川麻衣子先生のゼミ生たちが感じた平和への祈りを繋げる活動を紹介します。



小中高でも行ってきた平和学習を、なぜ大学のゼミ活動の一環として実施するのでしょうか。私は、より客観的に物事を見つめ、情報を整理し、冷静に考える力を持てるようになってきた今だからこそ、平和学習は必要だと考えます。これまで、戦跡をめぐるフィールドワークや、戦争体験者の生の声に触れる機会を設けてきました。今年は、「沖縄『平和の礎』名前を読み上げる集い」に参加しました。那覇市牧志町と松下町出身の500名の戦没者のお名前を読み上げました。名前はひとり一人のアイデンティティそのものです。生後1歳にも満たない幼子の名前や名前のわからない方も多くいらつしやいました。慰霊の日を前に、その方々が刻銘されている礎に手を合わせるために摩文仁へ向かいました。

今どきの学生たちは、意外と真摯に取り組んでくれます。「沖縄に生まれた自分は、本当はもつと沖縄戦のことを学びたいと思っていた」とフィールドワークに向かうバスの中で不意に語り出す学生もいました。これからの社会を築いていく彼らには、今沖縄で起きていること、世界で起きていることについて考えるのを諦めて欲しくないと思います。平和学習で感じ考えたことを、自分の言葉で次世代の人たちに語り継いでいって欲しいと願います。

### 01 趣旨説明

「福祉文化学科」吉川麻衣子





## ▶[健康スポーツ福祉専攻3年] 石原 昌琳さん

資料館フィールドワークを通じて、当時の人々が残した資料やジオラマから、沖縄戦の歴史やその時代の人々の暮らしについて学ぶことができました。特に印象に残ったのは、ガマを再現したジオラマでした。あの暗闇の中で銃声や砲撃音に怯えながら生活している様子を見て、住民がいつ死んでもおかしくないという恐怖に怯えている様子や、日本兵の表情から読み取れる怯えと苛立ちが、いつか住民たちに向かうのではないかという想像がとても恐ろしく感じました。

平和の礎の読み上げの時にも犠牲になった人の多さを感じましたが、平和祈念公園にある平和の礎とそこに多く連なっている名前を見て、改めて多くの人が巻き込まれた地上戦であったことを理解することができました。沖縄戦に巻き込まれて亡くなった方々に哀悼の意を表するとともに、生き抜いた人々に感謝して、今を大切に生きていきたいと思えます。

## ▶[健康スポーツ福祉専攻3年] 大城 優莉さん

私は保育園の時以来、平和祈念公園に行っていません。沖縄に住んでいながら自分が地元についてあまり知らないことに気づかされました。講話では、沖縄戦の歴史的背景について話を聞きましたが、全く知らない情報ばかりで驚きました。なぜ本土ではなく沖縄から攻撃が始まったのか、米軍がどのように沖縄を侵略していったのか、戦力に明らかな差があるのに戦闘が長引いた理由など、沖縄の立場から見ると理不尽に感じる内容ばかりでした。また、日本が戦争で得た植民地の捕虜も戦いに参加させられていたことは初耳でした。襲撃された上に、元敵国のために戦って死ぬなんて、私だったら絶対に嫌だと思いました。

講演の後、展示を見て、戦争の歴史や証言、遺品など、生々しい戦争の傷跡が多く、衝撃的で胸が苦しくなりました。同時に、これだけの大きな苦しみがあったのに、歴史として忘れ去られそうになっていることに悲しくなりました。実体験した方々が減少する中、沖縄に住んでいる人々ももっと危機感を持って、語り継ぐための学びを深めるべきだと思います。

最後にお花とお線香をお供えして、ご冥福をお祈りしました。初めて見る石碑には多くの名前が刻まれており、沖縄全域で多くの人々が亡くなったことを実感しました。

## ▶[健康スポーツ福祉専攻3年] 深谷 優さん

ゼミ活動での平和学習は、沖縄に来てあまりない貴重な体験でした。沖縄戦の話を学芸員の方にいただき、実際の沖縄の悲惨な悲劇や生々しい話でとても胸にさざりました。ふと自分が今こうして平和に過ごしているのも当たり前では無いと思いました。今後日本で戦争が起きないためにも過去の過ちを今生きる僕たちが今後継いでいかなければいけないと思いました。こうして生の声を聞ける世代も私たちの世代が最後だと思うので、今回学んだ事を、しっかりと次の世代に繋げられる様に自分たちも人ごとのようにするのではなく、一人ひとりが戦争という本当にあった話を忘れる事がないようにしたいと思いました。改めて戦争の悲惨さを知り、新たに沖縄戦の実態を知る事もできた貴重な時間でした。

## ▶[健康スポーツ福祉専攻4年] 右田 建志さん

平和の礎の名前読み上げや資料館フィールドワークの平和学習を通して私が学んだことは、戦争は悪いとただ後世に伝えるのではなく、なぜ沖縄戦が起きたのか日本の歴史を振り返りながら丁寧に伝えていくことの大切さです。沖縄戦の語り部の方が少ないからこそ、沖縄戦を経験した方の講話などに参加し、私にできることはないか考えていくことが世界の平和につながるのではないかと考えました。

私は故郷の福岡県で教員を目指しています。福岡県の教員だからといって沖縄戦の話をしてはいけないということはずいぶん、多くの人に沖縄戦のことを知ってもらうことが私の目標です。目標を達成するためには、大学在学中に沖縄戦の語り部の方の講話などに積極的に参加していきたいと考えています。

## ▶[社会福祉専攻4年] 前木 星乃さん

今回の平和学習では、平和講話を受けた後に展示室を回り、より深く沖縄戦について学ぶことができました。この学びを通して、沖縄戦を振り返り、これから自分たちに何ができるのかを考える貴重な機会となりました。また、ゼミのみんなでお名前を読み上げた「平和の礎」に線香と花を添え黙祷を捧げました。それは初めての経験で、心を込めて戦争が二度と起こらない平和な日々が続くことを祈りました。

私の親戚で現在生きている戦争体験者は、父方の祖母だけです。彼女は幼かったため、戦争という自覚はなかったと言います。そのため、展示室で戦争体験者の話を資料を通して知ることができるのは非常に貴重だと感じました。平和学習を通して、人間が人間でなくなり、人の命が軽視される戦争は決してあってはならないと強く感じました。

# News & Topics

## 2024 6/25 2024 『笑顔と歓声、ゼミ対抗ドッチビー！』 2024年度新入生歓迎スポーツ大会

国際コミュニケーション学科では、沖縄の子どもをめぐる多様な課題の解消を目指す「沖縄県子ども計画（仮称）」の策定に向けた沖縄県子ども未来部の取り組みに協力し、5月から6月にかけて、県内各地で子ども達の声の聞き取り調査を行って来ました。学生は、豊見城、北部、沖縄市、新都心、南城市、国場、北谷のグループに分かれ、児童館や子どもの居場所、知人・友人や兄弟姉妹、アルバイト先などで合計 217 名から聞き取りを行いました。



6月25日、「国際開発とSDGs（玉城直美先生）」の講義では、聞き取りをした結果、小中学生や高校生の困りごとや望む支援について、また大人に伝えたいことを発表しました。聞き取りを踏まえ、「貧困から体験が不足する状況が生まれている」との視点が示され、「夢や目標を見つけることができる体験の場」や「子ども達が日頃いろいろ考えていることを伝える場」など、新たな場づくりの必要性についても意見が出されました。

## 2024 5/17 2024 『笑顔と歓声、ゼミ対抗ドッチビー！』 2024年度新入生歓迎スポーツ大会

5月17日、新入生歓迎スポーツ大会が本学体育館で開催され、熱い戦いが繰り広げられました。

ゼミ対抗となるスポーツ大会は、ドッチビーと呼ばれるボールの代わりに柔らかいディスクを使ったドッジボールのような競技で競いあい、44ゼミと職員チーム、合わせて45チームが参加、1年生の問題発見演習ゼミが多く参加していましたが、先輩たちのチームも参加して大会を盛り上げていました。

講義のときはおとなしい学生たちも試合を重ねるごとに仲間とのチームワークが高まっていった様子で、会場は歓声と熱気、そして笑顔で溢れていました。

優勝は嘉数ゼミ（専門演習 a）、2位は玉木ゼミ（問題発見演習 1）、3位は末吉ゼミ（専門演習 a c）チームとなりました。



## 2024 6/27 2024 台湾嘉義市の民族國民小学校の児童が 学生と交流



6月27日、台湾嘉義市民族國民小学校の児童が沖縄大学を訪れ、学生と交流しました。

子ども文化学科松尾理沙先生のゼミでは約10年前より台湾嘉義市民族國民小学校との交流活動を続けています。今回は民族國民小学校の校長と教職員、児童16名が沖縄を訪れ、渡邊ゆきこ先生の講義や松尾ゼミの模擬授業を楽しみました。

児童たちは、1時限目は渡邊先生の「オーラル中国語 I」に参加し、STlabとVRで学ぶをテーマに交流授業を行いました。また2限目は子ども文化学科4年次の図工の模擬授業に参加、先生役の学生はすべて英語で授業を進めていき沖縄の海岸で学生が収集した貝殻などを使ってのフォトフレームづくりを楽しみました。沖縄と台湾では沖縄のほうが暑いと感想を話していた児童たち、午後はビーチでのバーベキューを楽しみました。

## 2024 6/28 2024 『墓文化に想いを馳せて 第一尚氏の陵墓を探索』前田ゼミ

6月28日、経法商学科前田舟子先生のゼミでは、読谷村にある第一尚氏の陵墓を探索しました。

学生たちは10分ほどの獣道を歩き、ようやく目的のお墓に辿り着きました。そこには、琉球を建国した尚巴志王（第二代国王）と息子の尚忠王（第三代国王）、孫の尚思達王（第四代国王）が眠っています。なぜ首里から遠く離れた読谷村に王家の墓があるのでしょうか。



かつて、首里には天山陵と呼ばれる第一尚氏の陵墓が存在しました。しかし、1469年に金丸（後の尚円王）のクーデターによって第一尚氏の王統が倒れると、金丸に天山陵を破壊されることを恐れた近親者らが墓を遠くに移葬しました。その隠し場所となったのが読谷村伊良皆の佐敷森だったのです。尚巴志のお墓を移葬した平田子（ひらたぬしー）と屋比久子（やびくぬしー）のお墓も佐敷森の中にあります。先生の解説を聞きながら、学生たちは当時の風習や墓文化に想いを馳せていました。

## 2024 6/7 2024 第7回OKIDAI THE 職人倶楽部開催 『Rokkan COFFEE オーナー奥武拓也さん』

沖縄で活躍する人のビジネスストーリーを伺い、視野を広げてほしいと企画している「OKIDAI THE 職人倶楽部」講演会が、学生食堂で開催されました。

第7回目の講師は、那覇市にコーヒーショップを2店舗経営している、Rokkan COFFEE オーナー奥武拓也さんをお招きして、コーヒーの魅力と観光立県沖縄のコーヒーツーリズムの可能性、農作物としてのコーヒーを取り巻く世界の環境などについてお話いただきました。コーヒーテイストングでは、粉の香り、お湯を注いでからの香り、そして味わうという流れで3種類の豆を比較、スペシャルティコーヒーと普通のコーヒーの違いを体感しました。



## 2024 6/20 2024 留学生から習うお国料理の会『韓国編』

6月20日、国際交流室主催の「留学生から習うお国料理の会」第一回目が調理実習室で開催され20名の学生と教職員が参加しました。

今回は『韓国編』で韓国の学生が授業の帰り道などに日常的に食べるといふスナック2品（トッポキ、ハニーコンボチキン）を協定校である聖公会



大学から来ているヘリンさんとコンソンさんが教えてくれました。食材は韓国で使われている材料を用意して調理を行い、各班オリジナルで味をつけ、それぞれの味の違いを学生たちは楽しんでいました。コンソンさんは、「韓国の屋台の味に似ている、どの班も美味しくできています」と感想を話してくれました。

みんなで作り食べる交流イベントは7月はベトナム料理、10月にはインドネシア料理を予定しています。

## 2024 6/15~22 2024 県大学バスケット3連覇！男子バスケット ボール部

第32回県大学バスケットボール選手権大会が沖縄国際大学体育館で開催され、3勝1敗で本学男子バスケットボール部は見事、優勝を決めました。男子バスケットボール部は3大会連続の優勝となります。



第32回県大学バスケットボール選手権大会 試合結果			
沖大-名桜大(71-63)	沖大-琉大医(66-45)	沖大-沖国大(99-58)	沖大-琉大(88-90)



# 2023年度決算について

※千円未満四捨五入

## 資金収支計算書

収入の部			
科目	予算	決算	差異
学生生徒等納付金収入	2,053,076	2,086,909	△ 33,833
手数料収入	34,263	26,896	7,366
寄付金収入	27,600	28,132	△ 532
補助金収入	631,472	604,100	27,371
資産売却収入	85,010	85,339	△ 329
付随事業・収益事業収入	643	1,277	△ 634
受取利息・配当金収入	1,519	1,574	△ 55
雑収入	7,842	24,393	△ 16,551
借入金等収入	70,540	58,000	12,540
前受金収入	949,302	907,200	42,102
その他の収入	58,171	58,996	△ 825
資金収入調整勘定	△ 907,820	△ 968,229	60,409
前年度繰越支払資金	2,504,479	2,504,479	
収入の部合計	5,516,097	5,419,069	97,027

支出の部			
科目	予算	決算	差異
人件費支出	1,337,263	1,331,981	5,281
教育研究経費支出	996,133	922,866	73,266
管理経費支出	108,413	96,219	12,193
借入金等利息支出	8,619	8,272	346
借入金等返済支出	80,960	113,960	△ 33,000
施設関係支出	77,915	19,846	58,068
設備関係支出	127,712	102,195	22,516
資産運用支出	61,000	63,166	△ 2,166
その他の支出	52,848	83,151	△ 30,303
予備費	1,073	-	1,073
資金支出調整勘定	△ 83,916	△ 103,085	19,169
翌年度繰越支払資金	2,751,074	2,780,494	△ 29,419
支出の部合計	5,516,097	5,419,069	97,027

## 貸借対照表

資産の部			
科目	本年度末	前年度末	増減
固定資産	5,624,578	5,795,474	△ 170,895
有形固定資産	4,867,885	5,093,321	△ 225,436
特定資産	684,867	622,413	62,454
その他の固定資産	71,825	79,739	△ 7,913
流動資産	2,794,878	2,572,858	222,019
資産の部合計	8,419,456	8,368,332	51,123

負債の部・純資産の部			
科目	本年度末	前年度末	増減
固定負債	1,123,092	1,100,165	22,926
流動負債	1,076,067	1,174,733	△ 98,665
負債の部合計	2,199,159	2,274,899	△ 75,739
基本金	7,755,009	7,774,491	△ 19,481
繰越収支差額	△ 1,534,713	△ 1,681,058	146,345
純資産の部合計	6,220,296	6,093,433	126,863
負債及び純資産の部合計	8,419,456	8,368,332	51,123



# 2024年度予算について

## 資金収支予算書

収入の部			
科目	本年度予算	前年度補正予算	増・減
学生生徒等納付金収入	2,063,000	2,053,076	9,924
手数料収入	30,535	34,263	△ 3,728
寄付金収入	28,328	27,600	728
補助金収入	651,557	631,472	20,085
資産売却収入	258	85,010	△ 84,752
受取利息・配当金収入	1,596	1,519	77
付随事業・収益事業収入	1,997	643	1,354
雑収入	37,687	7,842	29,845
借入金等収入	0	70,540	△ 70,540
前受金収入	907,820	949,302	△ 41,482
その他の収入	4,860	58,171	△ 53,311
資金収入調整勘定	△ 971,838	△ 907,820	△ 64,018
前年度繰越支払資金	2,751,074	2,504,479	246,595
収入の部合計	5,506,874	5,516,097	△ 9,222

支出の部			
科目	本年度予算	前年度補正予算	増・減
人件費支出	1,441,491	1,337,263	104,228
教育研究経費支出	1,007,739	991,851	15,888
管理経費支出	108,983	108,398	585
借入金等利息支出	8,117	8,619	△ 502
借入金等返済支出	83,360	80,960	2,400
施設関係支出	28,030	70,542	△ 42,512
設備関係支出	132,330	122,458	9,872
資産運用支出	86,000	61,000	25,000
その他の支出	32,467	52,848	△ 20,381
予備費	15,000	15,000	0
資金支出調整勘定	△ 103,381	△ 83,916	△ 19,464
翌年度繰越支払資金	2,666,738	2,751,074	△ 84,336
支出の部合計	5,506,874	5,516,097	△ 9,222

経常的な収支バランス

臨時的な収支バランス

## 事業活動収支予算書

事業活動収支予算書				
科目		本年度予算	前年度補正予算	増・減
教育事業での収支	学生生徒等納付金	2,063,000	2,053,076	9,924
	手数料	30,535	34,263	△ 3,728
	寄付金	28,328	27,600	728
	経常費等補助金	651,557	631,472	20,085
	付随事業収入	1,997	643	1,354
	雑収入	37,687	7,842	29,845
	教育活動収入計	2,813,104	2,754,896	58,208
	人件費	1,423,928	1,359,337	64,591
	教育研究経費	1,177,851	1,190,967	△ 13,116
	管理経費	116,349	115,976	373
教育活動支出計	2,718,128	2,666,280	51,848	
教育活動収支差額	94,976	88,616	6,360	
教育事業外の収支	受取利息・配当金	1,596	1,519	77
	教育活動外収入計	1,596	1,519	77
	借入金等利息	8,117	8,619	△ 502
	教育活動外支出計	8,117	8,619	△ 502
	教育活動外収支差額	△ 6,521	△ 7,100	579
経常収支差額	88,455	81,516	6,939	
特別収支	その他の特別収入	3,238	1,774	1,464
	特別収入計	3,238	1,774	1,464
	資産処分差額	3,000	46,509	△ 43,509
	特別支出計	3,000	46,509	△ 43,509
	特別収支差額	238	△ 44,735	△ 44,973
	(予備費)	15,000	15,000	-
	基本金組入前当年度収支差額	73,693	21,781	51,912
	基本金組入額合計	△ 132,863	0	△ 132,863
	当年度収支差額	△ 59,170	21,781	△ 80,951
	前年度繰越収支差額	△ 1,646,588	△ 1,681,058	34,470
基本金取崩額	0	12,689	△ 12,689	
翌年度繰越収支差額	△ 1,705,758	△ 1,646,588	△ 59,170	
(参考)				
事業活動収入計	2,817,938	2,758,189	59,749	
事業活動支出計	2,744,245	2,736,408	7,837	

## 事業活動収支計算書

【教育活動収支】 (単位 千円)			
事業活動収入の部			
科目	予算	決算	差異
学生生徒等納付金	2,053,076	2,086,909	△ 33,833
手数料	34,263	26,896	7,366
寄付金	27,600	28,400	△ 800
経常費等補助金	631,472	604,100	27,371
付随事業収入	643	1,277	△ 634
雑収入	7,842	24,089	△ 16,247
教育活動収入計	2,754,896	2,771,674	△ 16,778

事業活動支出の部			
科目	予算	決算	差異
人件費	1,359,337	1,348,691	10,645
教育研究経費	1,195,249	1,129,401	65,847
管理経費	115,991	104,307	11,684
教育活動支出計	2,670,577	2,582,400	88,176
教育活動収支差額	84,318	189,273	△ 104,955

【教育活動外収支】 (単位 千円)			
事業活動収入の部			
科目	予算	決算	差異
受取利息・配当金	1,519	1,574	△ 55
教育活動外収入計	1,519	1,574	△ 55
事業活動支出の部			
科目	予算	決算	差異
借入金等利息	8,619	8,272	346
教育活動外支出計	8,619	8,272	346
教育活動外収支差額	△ 7,100	△ 6,697	△ 402

【特別収支】 (単位 千円)			
事業活動収入の部			
科目	予算	決算	差異
資産売却差額	0	280	△ 280
その他の特別収入	1,774	11,967	△ 10,193
特別収入計	1,774	12,248	△ 10,474
事業活動支出の部			
科目	予算	決算	差異
資産処分差額	46,509	67,936	△ 21,427
特別支出計	46,509	67,960	△ 21,451
特別収支差額	△ 44,735	△ 55,712	10,977

(予備費)	10,702		10,702
基本金組入前当年度収支差額	21,781	126,863	△ 105,082
基本金組入額合計	0	△ 33,000	33,000
当年度収支差額	21,781	93,863	△ 72,082
前年度繰越収支差額	△ 1,681,058	△ 1,681,058	0
基本金取崩額	12,689	52,481	△ 39,792
翌年度繰越収支差額	△ 1,646,588	△ 1,534,713	△ 111,874

(参考)			
事業活動収入計	2,758,189	2,785,497	△ 27,308
事業活動支出計	2,736,408	2,658,633	77,774

2025年度 沖縄大学入試日程 学部

	願書受付期間 (必着)	入試日
総合型選抜 (10月)	2024年 9月26日(木)~10月2日(水)	2024年 10月19日(土)~10月20日(日)
総合型選抜 (12月)	2024年 12月2日(月)~12月6日(金)	2024年 12月14日(土)~12月15日(日)

	願書受付期間 (必着)	入試日
学校推薦型選抜	2024年 11月5日(火)~11月11日(月)	2024年 11月23日(土)~11月24日(日)
一般選抜 (前期)	2025年 1月14日(火)~1月22日(水)	2025年 2月6日(木)~2月8日(土)
大学入学共通 テスト利用選抜(前期)		2025年 1月18日(土)~1月19日(日)
一般選抜 (中期)	2025年 2月10日(月)~2月18日(火)	2025年 2月26日(水)
大学入学共通 テスト利用選抜(中期)		2025年 1月18日(土)~1月19日(日)
一般選抜 (後期)	2025年 2月26日(水)~3月4日(火)	2025年 3月12日(水)
大学入学共通 テスト利用選抜(後期)		2025年 1月18日(土)~1月19日(日)

2025年度 沖縄大学入試日程 大学院

	願書受付期間 (必着)	入試日
一般入試 (10月)	2024年 9月2日(月)~9月10日(火)	2024年 10月5日(土)
一般入試 (2月)	2025年 1月20日(月)~1月27日(月)	2025年 2月15日(土)

	エントリー期間	一次面談日	二次審査(面談)
AO入試 (10月) (社会人特別)	2024年 9月2日(月)~9月10日(火)	2024年 10月6日(日)	2024年 10月26日(土)
AO入試 (2月) (社会人特別)	2025年 1月20日(月)~1月27日(月)	2025年 2月1日(土)	2025年 2月22日(土)

2025年度 入試 募集定員

入試種別 学科・専攻	総合型選抜 (プレゼン 型:10月)	学校推薦型		総合型選抜 (講義型・プレ ゼン型:12月)	前期		中期		後期		合計
		専 門 高 校	高 校		一 般	共 通 テ ス ト 利 用	一 般	共 通 テ ス ト 利 用	一 般	共 通 テ ス ト 利 用	
経法商	55	60	5	25	24	28	10	7	3	3	220
国際コミュニケーション	25	20	2	5	10	7	5	2	2	2	80
福祉文化 (社会福祉専攻)	30	18	2	10	4	3	3	2	2	1	75
福祉文化 (健康スポーツ福祉専攻)	10	20		3	7	3		2			45
こども文化	10	20			10	6	2	2			50
管理栄養	25	37	2	5	5	3		3			80
合計	155	175	11	48	60	50	20	18	7	6	550

沖縄大学保護者懇談会のご案内

学生支援課では保護者懇談会を通じて、学生の学業や学生生活などについて教職員と保護者の個別面談を実施し、保護者の皆様と連携を密にしながら、きめ細かな学生支援を行って参りたいと考えております。

参加ご希望の方は郵送されたQRコードからの申込、メール、電話等で申込みを行って頂きますようご案内申し上げます。

尚、台風等で中止になる場合がございます。その際は大学ホームページでお知らせいたしますのでご確認ください。

[日程及び会場一覧はこちら→](#)

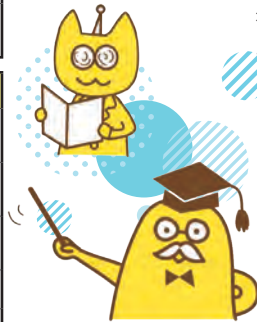
寄附をご希望のかた

☆インターネットからの申込み・金融機関での振込によるご寄附

本学ホームページ (<http://www.okinawa-u.ac.jp/>) をご参照ください。  
ホームページ内の寄附申込みサイトからお申し込みください。クレジットカード決済・コンビニ決済・Pay-easy 決済で、ご寄附頂けます。(株式会社エフレジのF-REGI 寄附支払いサイトでのお手続きとなります。)

問い合わせ先 メール: keiei@okinawa-u.ac.jp FAX: 098-832-0083  
〒902-8521 沖縄県那覇市宇国場 555 番地 沖縄大学経営企画室 宛

各入試とも願書受付開始日の1週間前(9時)よりWEB出願サイトで出願登録することが出来ます。



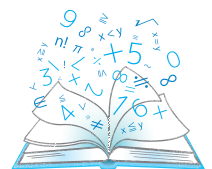
沖縄大学大学院・現代沖縄研究科には「地域経営専攻」と「沖縄東アジア地域研究専攻」の2専攻があります。  
昼夜・土曜開講制で原則として平日の6、7校時と土曜日の3、6校時に開講されます。2年間の就業年限を超えて、計画的に教育課程を履修し修了することを希望する社会人等の志願者について、長期履修生(3年間)としての入学を認める長期履修制度もあります。

学部

大学院

お問い合わせ先 入試広報室(電話098-832-1327)

2025年度 学生募集



大学院

現代沖縄研究科

- ・地域経営専攻 …… 5名
- ・沖縄・東アジア地域研究専攻 …… 5名

日程及び会場一覧

<久米島会場> 8月29日(木) 【EN Resort イービーチホテル】  
久米島町字謝名堂 548 (☎098-985-7111)

<宮古会場> 9月 4日(水) 【ホテルアトールエメラルド宮古島】  
平良市宇下里 108-7 (☎0980-73-9800)

<八重山会場> 9月 5日(木) 【アートホテル石垣島】  
石垣市大川 559 (☎0980-83-3311)

<北部会場> 9月10日(火) 【ホテルゆがふいんおきなわ】  
名護市宇宮里 453-1 (☎0980-53-0031)

※上記4会場については、面談時間: 18:00~19:00

<中南部会場> 9月14日(土) 【沖縄大学】  
那覇市国場 555 (☎098-832-7182)

面談時間: 13:00~16:30

申込みは  
こちらから

沖縄大学 学生支援課

TEL: 098-832-7182 (受付時間 平日 9:00~17:00)  
Mail: gakuseika@okinawa-u.ac.jp